

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度 第3回 弘前圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開 催 年 月 日	令和4年1月13日(木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	10時00分 から 10時40分 まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	北原 啓司
出 席 者	座長：北原 啓司 副座長：藤田 俊彦 委員：山形 正臣、木村 知広、櫛引 利貞、阿保 鉄幸、大橋 忠宏、大川 誠、北畠 千春、大川 みどり、小野 正幸、木立 恭子、小川 貴弘
欠 席 者	委員：坂本 祥一、南 直之進、久保 順一、高橋 美紀子、齋藤 憲法、兵藤 有加里、成田 柊
オブザーバー 職 氏 名	青森県 中南地域県民局地域連携部主幹：佐藤 佳奈子 黒石市 企画財政部企画課主任主事：今 優子 平川市 企画財政課主事：築館 佑樹 藤崎町 経営戦略課主事：工藤 香那子 大鰐町 企画観光課主査：高橋 由美 田舎館村 企画観光課企画係長：平川 敬
事務局職員 職 氏 名	企画部長：外川 吉彦 企画課長：白戸 麻紀子 企画課長補佐：青山 洋蔵 企画課地域振興担当主幹：中一 健司 企画課地域振興担当主査：葛西 弘典、三浦 陽子
連携施策担当課 職員の職氏名	こども家庭課保育係長：長谷川 竜太 環境課資源循環係長：佐藤 貴之 地域交通課交通政策係長：今 隆洋
会 議 の 議 題	(1) 第3次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン(素案)について (2) 今後のスケジュールについて
会 議 結 果	次頁のとおり
会 議 資 料 の 名 称	資料1：第3次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン(素案) 資料2：第3次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン(素案)事業費一覧表(別冊) 資料3：第2回懇談会での意見等と回答 資料4：弘前圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会に係る今後のスケジュール
会 議 内 容 (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	次頁のとおり
その他必要事項	・会議は非公開である ・傍聴者数：0名

1. 開会

2. 議事

（1）第3次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン（素案）について

資料1～資料3に基づき、事務局から第3次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン（素案）について説明。

【質疑応答】

（委員）

資料1のP47「カラス対策連携事業」の重要業績評価指標（KPI）「ごみ集積ボックス等設置数」に関連して、戸別収集の場合は収集に手間がかかって大変そうだなと感じている。カラス対策としてだけでなく、ごみ収集の効率化という側面からも、ごみ集積ボックスを増やしていくというような方針はあるのか。

（環境課）

弘前市の場合、「弘前市一般廃棄物処理基本計画」を策定し、収集効率向上の観点から、戸別収集（毎戸収集）を減らしていく方向で10年以上前から取り組んでいる。しかし、道路の幅員が狭いなどの理由により、新たなごみ集積所の設置が困難な場合もある。

他県では、1年の猶予期間を経て、市内一律で戸別収集からごみ集積所によるステーション収集方式への切替を実施したが、順調には進まず、認定していないごみ集積所が大量に設置されてしまうなどの問題が発生し、また、道路上に無断で設置されてしまうなど占有の問題も発生した事例もある。

このようなことから、弘前市では、時間は要するが、各課題を解決しながら、住民の方々の同意を得ながら、ごみ集積所を増やしていくという方法をとっており、町会単位でご協力をいただいている状況である。

ごみ集積所によるステーション収集方式への切替については、今後さらに取組を推進する予定としている。現在、弘前市全世帯の約8.7%が戸別収集であるが、次期一般廃棄物処理基本計画策定の際には、例えば具体的な目標値を設定するなど検討したいと考えている。

また、弘前市では、ごみ集積所に黄色防鳥ネットを設置しており、カラスがネットを持ち上げられないよう、錘付きのものを設置している。しかし、1羽では持ち上げられなくても、2羽で協力して持ち上げ、3羽目がゴミを引き出すといった事例が近年報告されている。賢くなっていくカラスに対して、ネットではなく、鉄カゴや、折り畳み式ごみ収納枠などの設置を進めていくべきと考えている。

折り畳み式ごみ収納枠については、道路の占有の問題もおおむねクリアできるものであるため、カラス対策としてだけでなく、収集効率向上の観点からも、弘前市において積極的に設置を進めている。

（座長）

弘前市以外の圏域市町村の状況は把握しているか。

（環境課）

カラス問題については、連携市町村である黒石市と情報交換しており、黒石市のほうがカラ

ス被害の苦情が少ないようである。今から10年以上前は、黒石バイパス沿いに、黒石市と弘前市を1年毎に行ったり来たりしているという話もあったが、最近では弘前市に停留し続けていることが確認されている。圏域でカラス問題が取り上げられ始めた頃からは状況が若干異なってきているように所感している。

(委員)

資料3のP4の③の意見については、新型コロナウイルス感染症の影響により困窮している方々が増えているのではないかと懸念もあって、貧困家庭に対して子育て支援など検討すべきという意見であり、これに対して担当課から現在の支援施策などについて回答されている。

これに関連して、実際に支援を必要としている、あるいは既に支援を受けている方々について、新型コロナウイルス感染症の流行前後で人数等に違いがあれば説明いただきたい。

(子ども家庭課)

新型コロナウイルス感染症の流行前後における生活困窮に係る相談件数の推移について、本日資料を持ち合わせていないため、この場では説明できかねるが、弘前市子ども家庭課子育て相談係に寄せられる相談件数は増加していると記憶している。

(座長)

本日の会議終了後、どのような形でも良いので、当該のデータを委員に提供していただきたい。

(委員)

資料3のP4の意見③、貧困家庭に対して子育て支援など検討すべき、という意見に関連して、弘前商工会議所における子育て支援活動等の手伝いをしている中で、子ども食堂が増えてきており、受け皿にもなっているということは知っていたが、意見③への回答において、弘前市の例として学習支援や生活支援、就労支援まで含めて総合的に実施しているということを知り、安心した。

ただ、子ども食堂などボランティアで活動している方々に対しても、弘前市で力を入れて支援してあげてほしいと思う。

(事務局)

子ども食堂については、一昨年度から弘前市企画課において、各子ども食堂を運営する団体の取りまとめ役のような、中間支援団体への支援を実施している。

例えば、中間支援団体が市の公共施設や銀行、病院、コンビニエンスストア等へフードボックス(食品収集箱)を設置し、市民の方や職員の方などから寄付された食料品を集めて、それを各子ども食堂に配布するという取組について、支援を実施している。

このほか、子ども食堂が増えると地域としての支えにもなることから、子ども食堂を始めてみたいという方々へ、運営のノウハウなどを提供する機会づくりといった、子ども食堂のネットワーク強化の取組も支援している。

(委員)

資料3のP4の意見⑩、事業名「公共交通ネットワークの再構築及び利用促進活動の実施」の重要業績評価(KPI)について、高い目標を立てて、それにどれだけ近づけるかということを、まずはやってみて、できなければ見直していく、という考え方に特に異論はない。

単に公共交通の利用促進を図るという視点だけではなく、現在、弘前市を中心に、より積極的に公共交通を活用するような取組も実施されており、そういうものは、やはりすぐには効果がでないので、まずは公共交通を使ってみていただける、そして継続して使っていただけるような取組が、ビジョンの記載内容としては結構漠然としているが、実際はいろいろな取組が実施されると思うので、その中で反映されていくのかなと考えている。

余談だが、おそらく数年後にはJR青森駅～弘前駅で交通系ICカードを使えるようになると思うので、公共交通の利用促進を進めていく上では、交通系ICカードを利用して来た人たちが抵抗感なく圏域の公共交通を使っていただけるような、基盤づくりを進めることができればより良い。ただ、それをこのビジョンに盛り込むにはやや重すぎる場所もあると思っている。

(2) 今後のスケジュールについて

資料4に基づき、事務局から弘前圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会に係る今後のスケジュールについて説明。

【質疑応答】

なし

3. 閉会